

稲成公民館だよりをご活用ください！

稲成公民館では、毎月1回公民館だよりを発行し、公民館の行事や取組をお知らせしています。

また、より地域に密着した情報を提供できるよう地域の皆さんの活動や地域の催しについてもご紹介しているところです。

皆さんが行っている地域活動や周りに『こんな面白いところがあるよ！』といった情報がありましたら、是非お知らせください。よろしくお願いします。

○例えば・・・

- ・○○では、他ではあまりやっていないことをしている。
- ・◇◇さんは、▲▲の達人だ。（プロ級の腕前だ・・・）
- ・□□は、▽▽の隠れスポット！ など



- ❖ ご連絡をいただけましたら、公民館主事が取材に行かせていただきます！
- ※内容によっては、紙面に掲載できない場合がありますことをご了承ください。

稲成公民館 LINE公式アカウントに登録しませんか？

稲成公民館では、地域の皆さんに公民館からの様々な情報をお届けするため、『LINE』による情報発信を行っています。公民館のイベント情報やお知らせを皆さんの元にお届けします。

是非、ご登録をお願いします。

【登録方法1】

右のQRコードを読み取り、田辺市稲成公民館を追加して登録!!



【登録方法2】

ID検索 @886wqzzlを検索して登録



地域の力 大募集！（ボランティア人材バンク）

稲成公民館では、「ボランティア人材バンク」を設立し、学校や地域活動にボランティアとして協力していただける方を随時募集しています。

登録いただける方は、公民館事務局までお問合せください。

稲成公民館 事務局（☎26－4925）

令和4年12月号 公民館だより



発行：稲成公民館

館長：倉谷 修治 主事：津田 祐司

事務所：田辺市高雄一丁目23番1号

市民総合センター内

TEL：26－4925 FAX：25－6029

田辺市ホームページ <http://www.city.tanabe.lg.jp/>

稲成公民館区 人口 及び 世帯数 令和4年10月末現在

人口3,216人 世帯数1,486世帯 男性1,526人 女性1,690人



「つどう」「まなぶ」「むすぶ」 稲成公民館長 倉谷 修治

早いもので今年も今年を残すのみとなりました。今年は冬の訪れは早いのかと思いきや、日中には25度近くなる日も幾日もあり、天気の変化に戸惑いながらも過ごしやすい日々が続いております。皆様方はいかがお過ごしでしょうか。

さて、公民館では、コロナの収束も先が中々見えない中、規模を縮小してではありますが、11月20日（日）に3年ぶりに「2022 稲成・むつみ ふれあい文化祭」を開催することができました。午前には稲成小学校の学習発表会、午後からは稲成小学校の卒業生が多く通う高雄中学校の吹奏楽部による演奏会、弁慶鬼若太鼓保存会の皆さまによる「和太鼓」の演奏会、そして締め括りは大餅撒きと。天候が危ぶまれる中でしたが、午後からの催物に合わせたかのように、青空もののぞきははじめ、スタッフ一同安心した次第です。

弁慶鬼若太鼓の演奏の合間には、児童が和太鼓とふれあう時間を設けてくださり、みんな思い思いに（太鼓の革を破らない程度に）叩いておりました。児童たちにとってまたとない貴重な場を提供していただき感謝いたします。きっと良い思い出になったのではないのでしょうか。演奏中、児童は真剣な眼差しでお兄さん、お姉さんの演奏に耳を傾けておりました。その様子から、先生方お一人お一人が真摯に児童と向き合われておられる結果だと思い、感銘を受けた次第です。また、準備から片づけまで運営にご協力いただきました約30名のスタッフの皆様方には紙面をお借りしまして感謝申し上げます。

話は変わりますが、先月、全国公民館研究集会和歌山大会が和歌山市で開催され、出席させていただきました。多くの町内会、公民館が抱える課題について、どのような対策を講じられておられるのか、情報を得たいと思ったからです。ご多分に漏れずこの公民館でも町内会離れが進んでおり、公民館活動も毎回同じ方々の参加で、中々新たな参加者が集まらないとのことでした。そんな中、私は和歌山県広川町中央公民館の発表「高齢者の学びと講座づくり」の分科会に参加しました。広川町では、「稲村の火」にまつわる取組や町内在住の60歳以上の方々が学ぶ「みんなで楽しく健康に過ごす」ことを目的とした「耐久生涯大学」なるものを25年前に発足させ、その取組についてお話をされていました。

さて、皆さまご存知のようにいよいよ待望の稲成公民館がその姿を現しました。随分と立派な構えになっております。公民館の趣旨を踏まえ、構えに負けないような取組になるように、また、多くの方々が集える場所となるように努力をしていかなくはと気持ちを新たに、肝に銘じた次第です。

皆様方のご意見ご要望をもとに中身の濃いものにしていくために、皆様方のご協力の程よろしくお願いいたします。

慌ただしい年の瀬に向けて、皆さまにご自身の身を守るためにも感染対策をしっかり取っていただき、新しい年をお元気で迎えられますよう切に願っております。明けての年もどうぞよろしくお願いいたします。

2022 稲成・むつみふれあい文化祭を開催しました！

11月20日（日）、稲成小学校グラウンドにおいて、「2022 稲成・むつみ ふれあい文化祭」を開催しました。天気予報では当日は雨の予報、午前中に少し雨が降ったことで、私たちスタッフも雨雲レーダーを随時確認しながら、当初予定していなかったテントを急遽準備するなど、急な雨に備えました。

そのような対策を取ったことが功を奏したのか、午後1時の開会前から少しずつ晴間が見え始め、文化祭がスタートしました。

公民館長の開会の挨拶の後、高雄中学校吹奏楽部の皆さんに小学生が知っている曲を織り交ぜるなど、工夫を凝らした演奏を披露していただきました。児童や会場の皆さんも手拍子をするなど楽しそうに鑑賞していました。高雄中学校吹奏楽部の皆さん、素晴らしい演奏をありがとうございました。

続く、「弁慶鬼若太鼓保存会」の皆さんは、美しい所作と息の揃ったばちさばきで、会場の皆さんが楽しめるようパフォーマンスを交えた演奏を披露していただきました。迫力ある太鼓の響きと手拍子が一体となって会場を包み込みました。演奏の合間に和太鼓の体験も行い、小学生たちは様々な大きさの太鼓に驚きながらも保存会の皆さんのアドバイスを受けながら、それぞれが楽しい時間を過ごしました。

「弁慶鬼若太鼓保存会」の皆さん、素晴らしい演奏をありがとうございました。

演奏終了後、複数個所に分散して餅撒きを行い、無時に終了することができました。会場にお越しの皆さん、誠にありがとうございました。来年こそは、「稲成・むつみ ふるさと祭り」を盛大に開催できることを願いたいものです。

また、お忙しい中、早朝より本事業の運営にご協力をいただきましたスタッフの皆さん、誠にありがとうございました。今後とも、公民館活動にご協力をよろしくお願いいたします。

◎高雄中学校吹奏楽部の演奏風景



◎弁慶鬼若太鼓保存会の演奏



◎和太鼓の演奏



◎餅撒き



「和歌山県花を愛する県民の集い」で表彰(むつみ町内会)

～公園の花壇の世話で功労者感謝状～

むつみ町内会は、10月1日（土）にガーデンホテルハナヨアリーナで開催された「和歌山県花を愛する県民の集い」において、功労者感謝状を授与されました。

「和歌山県花を愛する県民の集い」では、毎年県内において「和歌山県花を愛する県民の集い」の趣旨に沿った活動で功労があった団体や個人に対し、功労者感謝状を贈呈しています。

むつみ町内会は、今回、功労者感謝状贈呈団体の1つに選ばれました。

むつみ町内会は、むつみ第1公園（通称「さくら公園」）の花壇に季節の花を植えています。この花壇は、以前から町内会役員や委員の皆さんが、年に2回の植え替え作業を行うなど花を植栽し育てています。

公園に四季折々の花を植栽することで、地区内の住民だけでなく訪れる人々の目を楽しませるとともに、花づくりを通じて町内会の活性化と環境美化に貢献しています。

このような歴代の町内会役員、委員の皆さんの地道な活動が今回の表彰につながったのではないかと考えています。

稲成公民館 学社融合の取組

～稲成小学校3年生 防災学習～

10月31日（月）、稲成町内会長の山田能久さん、倉谷公民館長、公民館主事の3名が稲成小学校3年生の児童を対象に「防災学習」の授業を行いました。

山田会長は、過去に稲成地域や田辺市で発生した地震、津波、洪水などの被災状況について図面や当時の写真をもとに説明しました。また、倉谷館長は、昭和35年（1960）5月24日のチリ地震津波の被災体験を写真や資料を交えて説明しました。

最後に、公民館主事は、地震や津波、洪水が発生した時の心得や避難方法について説明しました。

3年生の皆さんは、真剣に話を聞いてメモを取ったり疑問に思ったことは積極的に質問したりするなど、自分たちが住む地域について関心を持ちながら学習を進めていました。

【チリ地震津波】

南米のチリの沖合を震源に発生。地震の規模は観測史上最大のマグニチュード9.5。地球の反対側で発生した地震による津波は、地震発生から23時間後の昭和35年（1960）5月24日早朝に北海道から沖縄までの太平洋沿岸地域に到達し、甚大な被害を与えました。

田辺市においては、新庄町を中心に500戸以上の民家が床上・床下浸水、大量の木材などが流失したほか、橋や道路も流失、決壊し、田畑も冠水するなど多くの被害が発生しました。

この地震は、日本で体感する地震がなく、気象庁の対応も遅れ、完全な不意打ちとなり、この津波の被害により、津波予報体制に根本的な変革をもたらし、国際的な連携が加速されるきっかけとなりました。

【参考：内閣府ホームページ、2020年11月18日付 紀伊民報記事】

